

早目に受けて流行に備えよう！ インフルエンザ「予防接種 Q&A」

Q 昨年、インフルエンザの予防接種を受けましたが今年も接種したほうがいいですか？

A 流行するウイルス株は毎年違うため、予防接種は毎年が望ましいです



インフルエンザワクチンの十分な予防効果を得るために、毎年接種することをおすすめします。その理由は、流行するインフルエンザウイルス株は毎年変わるからです。インフルエンザワクチンは流行するウイルス株を予測したうえで、毎年異なるものが製造されているのです。

また、季節性インフルエンザワクチンの効果は、接種（13歳未満は2回接種）後、2週間から5ヵ月程度といわれています。国内では、3シーズンにわたって流行がなかったため、集団免疫が低下していると考えられます。実際、今年に入ってから季節外れのインフルエンザが流行中で、学級閉鎖や学年閉鎖等が発生する地域も出ています。できるだけ早めに接種を受けておきましょう。

Q 2022/2023 シーズンの予防接種に含まれるワクチン株の種類は何ですか？

A A 型 2 種・B 型 2 種の「4 価ワクチン」です

近年、A 型ウイルスの A (H1N1) pdm09 と A (H3N2) に加え、B 型ウイルス 2 系統の混合流行が続いており、WHO（世界保健機関）では 2013 シーズンの南半球向けから、B 型 2 系統のワクチン株を含む 4 種類の混合ワクチンを推奨しています。

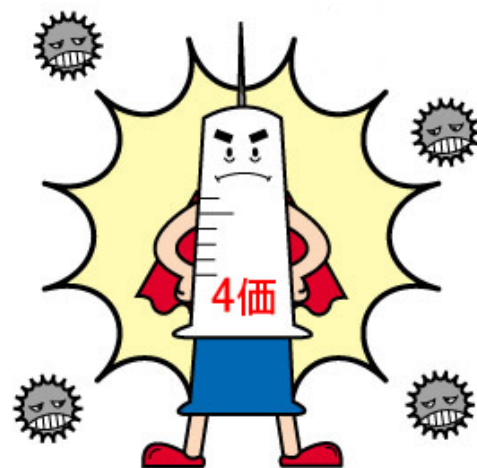
こうした動向を受け、日本でも 2015/2016 シーズンから、A 型 2 種・B 型 2 種の 4 価ワクチンが導入されています。今シーズン（2023/2024 シーズン）のワクチン株は以下のとおりです。

A/ビクトリア/4897/2022(IVR-238)(H1N1)pdm09

A/ダーウィン/9/2021 (SAN-010)(H3N2)

B/プーケット/3073/2013 (山形系統)

B/オーストリア/1359417/2021 (BVR-26)(ビクトリア系統)



Q 予防接種が特に必要、またはすすめられる人は？

A 免疫力が低く、重症化が予測される人です

インフルエンザワクチンは、病原性をなくしたウイルスを注射して免疫をつくるもので、感染を 100% 予防できるものではありませんが、接種しておくことで、仮に感染・発症しても重症化を抑える効果が期待できます。

65 歳以上の高齢者、乳幼児（生後 6 ヶ月後以降）、妊婦、慢性の呼吸器疾患・心臓病・糖尿病・腎不全（人工透析を受けている）といった持病（基礎疾患）のある人など、免疫力が低い、または低下していると考えられる方は、予防接種を受けておくことが特にすすめられます。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が起こっています。医療機関に患者が殺到するリスクを少しでも低下させるためにも、ぜひ接種を検討してください。